

いちのみや
市制100周年
関連事業
特別展

石本

Ishimoto SHO
A Centennial Retrospective

生誕100年回顧展

正

2021

9/11^土 ▶ 10/24^日

※ただし、9月11日(土)は内覧会のため一般公開は正午から

開催時間：午前9時～午後5時(ただし、入館は午後4時30分まで)

休館日：毎週月曜日(ただし、9月20日(月)は開館)、
9月21日(火)、9月24日(金)

会場：一宮市三岸節子記念美術館

観覧料：一般1,000円、高校・大学生500円、中学生以下無料

※コレクション展(三岸節子常設展示室)観覧料を含む

※20名以上の団体は2割引

※一宮市在住の満65歳以上で住所・年齢の確認できる公的機関発行の
証明書等を提示された方、および身体障害者手帳・戦傷病者手帳・
精神障害者保健福祉手帳・療育手帳を持参の方(ミライID可、
付添人1人を含む)は無料

主催：一宮市三岸節子記念美術館、朝日新聞社

特別協力：浜田市立石正美術館

協賛：NISSHA株式会社



一宮市三岸節子記念美術館

〒494-0007 愛知県一宮市小信中島字郷南3147-1
TEL:0586-63-2892 FAX:0586-63-2893

石本 正

Ishimoto SHO
A Centennial Retrospective

石本正生誕 100 年
ISHIMOTO SHO
100th Anniversary of birth



《黎明》1993(平成5)年、浜田市立石正美術館蔵



《鶏頭》1974(昭和49)年
浜田市立石正美術館蔵



《紅土の丘》1958(昭和33)年
浜田市立石正美術館蔵

1920(大正9)年、現在の島根県浜田市三隅町に生まれた日本画家・石本正(1920-2015)。京都を拠点としながら創造美術に参加、後には代表的な作品テーマとなった「舞妓」、「裸婦」に見られる体温や肌の質感、精神性を感じさせる人体表現が高く評価されました。この度、2020年の生誕100年を記念し、画家の全画業を紹介する初の大回顧展を開催します。

本展では、これまで門外不出とされてきた浜田市立石正美術館の所蔵作品を中心に、石本の青年時代から最晩年までの75年におよぶ画業の全貌を代表作から辿ります。さらに絶筆となった《舞妓》、新たにアトリエから見つかった素描のほか、文豪・川端康成との親交を示す初出資料も展示。地位や名声を求めず、最期の瞬間まで絵画一筋に生きた石本の生涯と創作の原点を紹介します。



《舞妓》1968(昭和43)年、浜田市立石正美術館蔵



《五条坂風景(五条坂)》1950(昭和25)年、個人蔵(浜田市立石正美術館寄託)

関連イベント

9/11⁺ 14:00~(開場 13:30)

スライドトーク

講師／横山由美子氏(浜田市立石正美術館 主任学芸員)
会場／講義室
定員／60名(先着)
参加費／無料
申込み／不要(当日直接会場)

10/2⁺ 14:00~(開場 13:30)

講演会

講師／西久松吉雄氏(創画会会員、浜田市立石正美術館 館長)
会場／講義室
定員／60名(先着)
参加費／無料
申込み／不要(当日直接会場)

10/9⁺・10⁺ 各13:00~16:30

ワークショップ

「挑戦！はじめての日本画」

和紙、膠、岩絵具など日本画に使われている素材に触れ、その作業工程を学びながらひとつの作品を作り上げます。

日時／10月9日(土)、10日(日)各13:00~16:30

講師／中沢梓氏(大和絵師)
対象／一般(小学生以上。小学3年生以下は保護者同伴)
定員／各12名(抽選)
会場／講義室
参加費／2,000円

申込み／9月20日(月・祝)午後5時(必着)までに、電話もしくは、郵便番号・住所・参加者名(ふりがな)・小学生以下は学年・電話番号・参加希望日を記入し「はじめての日本画」と明記の上、はがきまたはメールで、三岸節子記念美術館(〒494-0007 一宮市小信中島字郷南3147-1、TEL 0586-63-2892、メールアドレス migishi@city.ichinomiya.lg.jp)まで。

9/19⁺・10/17⁺ 各14:00~

学芸員によるギャラリートーク

参加費／無料(要観覧券)
申込み／不要(当日直接会場)

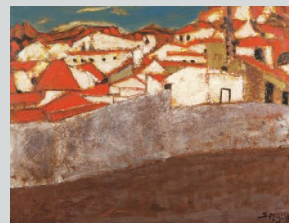
※新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、予告なく中止・変更となる場合があります。最新情報は当館SNSをご確認ください。
※当館および一宮市が取材した記録映像・音声等は、加工せずそのままウェブサイトや広報紙に掲載することがあります。

同時開催

コレクション展(常設展) 「色彩画家のヨーロッパ紀行」

7月10日(土)~10月31日(日)

ヨーロッパ滞在を経て、三岸節子が描き出した異国の風景画。そこには、訪れた各地の表情が華やかに、時には単色で表現されています。節子の足跡をたどりながら、その先で画家の目が捉えた色彩豊かな風景を紹介します。



三岸節子「小さな町(アンダルシア)」1987年 ©MIGISHI



一宮市三岸節子記念美術館

〒494-0007 愛知県一宮市小信中島字郷南3147-1

メールアドレス migishi@city.ichinomiya.lg.jp <http://s-migishi.com>

f @s.migishi.museum i @s.migishi.museum t @s_migishi_muse

〈交通案内／公共交通機関をご利用の場合〉 名古屋駅より電車とバスで約40分

- JR東海道本線(名古屋駅5⑥番)にて「尾張一宮駅」下車、または名鉄名古屋本線にて「名鉄一宮駅」下車(JR新快速・名鉄特急で10~15分)、一宮駅西口の名鉄バスターミナル②番のりばから「起(おこし)」行きで約15分、「起工高・三岸美術館前」バス停下車、徒歩1分。[バスは約15分間隔で運行]
- 岐阜羽島駅(東海道新幹線)よりタクシーで約20分

